大会名 Competition	第71回秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技【男子決勝】
NO, M４	Year 2025年　Month 6 月　Day 3 日　Time 14 : 00
場 所 Place	CNAアリーナあきた

秋田県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部

チームＡ		チームＢ
能代科学技術	17 1st 12 28 2nd 24 26 3rd 21 29 4th 19 OT	ノースアジア大学明桜
100 ○		76 ●

No,	Pl-in	選手氏名 Name of Players	PTS	３Ｐ	２Ｐ	FT	F
4	／	佐藤悠斗	0	0	0	0	0
5	×	金澤隼輝	12	2	3	0	3
6	×	信太虹輝	17	3	4	0	1
7	×	高坂岳 CAP	6	0	3	0	1
8	／	下田瑛斗	5	0	2	1	0
9	／	山﨑七星	15	1	6	0	0
10	／	安藤璃琥	7	1	2	0	3
11	×	宮田蒼羽	15	1	6	0	2
12	×	松田来翔	7	1	2	0	2
13	／	近藤愛翔	3	1	0	0	1
14	／	岸部瑛大	6	0	3	0	0
15	／	熊澤隼	7	0	3	1	0
16	／	名古屋蒼良	0	0	0	0	0
17	／	大嶋遙佳	0	0	0	0	2
18		黒澤啓太	－	－	－	－	－
19		遠藤泰良	－	－	－	－	－
20		渡辺楓晴	－	－	－	－	－
21		工藤祥	－	－	－	－	－
ｺｰﾁ		長谷川聡					
Aｺｰﾁ		遠田貴大					
合計			100	10	34	2	15

No,	Pl-in	選手氏名 Name of Players	PTS	３Ｐ	２Ｐ	FT	F
4		大信田大空	－	－	－	－	－
5	×	遠藤都羽 CAP	19	1	5	6	1
6	×	加藤怜央	15	0	6	3	1
7		齊藤俊介	－	－	－	－	－
8		佐藤仁夢	－	－	－	－	－
9		山形空	－	－	－	－	－
10		石川洋大	－	－	－	－	－
11	×	東海林岳瑠	5	0	2	1	2
12	×	田口柊登	30	2	11	2	1
13		神田龍吾	－	－	－	－	－
14	×	小寺捷太	7	2	0	1	1
15		髙橋眞	－	－	－	－	－
16		小田伊吹	－	－	－	－	－
17	／	下平駈	0	0	0	0	1
18		福田凌光	－	－	－	－	－
19		石山夏	－	－	－	－	－
20		児玉慧治	－	－	－	－	－
21		太田海斗	－	－	－	－	－
ｺｰﾁ		梅津卓					
合計			76	5	24	13	7

※×:ｽﾀｰﾀｰ　／:交代選手　PTS:ﾎﾟｲﾝﾄ　3P:3Pﾎﾟｲﾝﾄｼｭｰﾄ　2P:2Pﾎﾟｲﾝﾄｼｭｰﾄ　FT:ﾌﾘｰｽﾛｰ　F:ﾌｧｳﾙ

男子決勝は第１シードの能代科技とノーシードから勝ち上がってきた明桜との対戦となった。

第１Ｑは能代科技が#5金からの合わせで#11宮田がレイアップを決め、先制。その後も、#12松田のレイアップ、#6信太の３Ｐで得点を伸ばしていく。対する明桜はフリースローでしか得点が奪えず、苦しい時間帯が続くが、リバウンドから#5遠藤がゴール下シュートを打ち、この日最初のフィールドゴールを決める。最初のタイムアウトはファウルがたまった能代科技。タイムアウト明けに能代科技はディフェンスを高い位置から仕掛けていき、相手のミスを誘発し、得点を重ね、17-12でリードしてこのＱを終えた。

第２Ｑに入ると両者点の取り合いとなる。明桜は#6加藤のアシストから#12田口がゴール下を連続で決める。その後も、明桜は#6加藤、#11東海林がレイアップを決めていき、点差をつめようとするが、能代科技も#9山﨑のミドル、#11宮田の３Ｐなどで得点を伸ばしていく。連続得点されたところで明桜がタイムアウトで立て直しを図るが、能代科技が#6信太、#9山﨑のミドルでリードを広げる。苦しいところで明桜は#12田口がバスケットカウントワンスローをものにし、かつ３Ｐも沈める。しかし、能代科技は#6信太の３Ｐや#9山﨑のミドルで点差を広げ、前半を45-36で終える。

第３Ｑの先制も能代科技。#5金のゴール下、#7高坂のドライブ、#6信太の３Ｐが決まったところで明桜がタイムアウト。その後、能代科技術は2-2-1プレスでプレッシャーをかけていく。明桜は#14小寺が３Ｐを決めるが、すかさず能代科技の#5金が３Ｐを決め返す。能代科技が#11宮田、#5金で得点を伸ばしていく中で明桜は#12田口のゴール下、#5遠藤、#14小寺の３Ｐなどで食らいつき、残り2分で点差を7点まで縮めるものの、終了間際に能代科技の#5金、#12松田にシュートを決められ71-57でこのＱを終える。

第４Ｑは能代科技が速い展開で仕掛け、連続得点をしたところで明桜がたまらずタイムアウト。しかし、能代科技は代わって入ったメンバーが躍動し、得点を重ねていく。疲れの見える明桜だが#6加藤が積極的にドライブを仕掛け、オフェンスを牽引していく。明桜は#12田口の３Ｐや#5遠藤のミドルで意地を見せる。しかし、リバウンドなどをものにする能代科技は#10安藤、#14岸部、#15熊澤が着実に得点を重ねていく。リードを広げた能代科技が最終スコアを100-76とし、２年ぶりのインターハイ出場を決めた。

文責 【　千田玲央奈(秋田)　】